

# 九十九島賞争奪戦

浅井 康太(三重・90期)



調子は問題なし!!

「バンクに応じた走りが出来ている」とは、天才レーサーらしいコメント。11月8日の時点で賞金ランキング第5位。GP参戦をほぼ手中に収めている。今年の前半は落車が続いて苦戦していたが、後半に入って「力を出し切るレースが出来ているし、結果に繋がっている」と、良い状態を維持している。今回は金子貴志とのセット配分だが、「金子さんにはいつも前を任されているので」とか。2009年の共同通信社杯春一番で決勝進出している相性の良いバンクで、狙うのは佐世保記念初優勝だ。

成田 和也(福島・88期)



魅了する走りを!!

自粛期間中は「ファンを魅了する走りを目標に練習してきました」と、意気込みを披露。実戦に復帰してからは一戦ごとにレース勘も戻ったようで、「(体の)反応も悪くないし、仕事は出来たと思います」。確かな手応えを掴み始めて、「さあ、これから」という時期の8月豊橋記念で落車負傷して鎖骨骨折のアクシデント。11月競輪祭(小倉)が当面の大きな目標と思われるが、実戦復帰となれば、競輪祭から1か月の調整期間が有る佐世保には、狙える状態での参戦が期待できそうだ。

新田 祐大(福島・90期)



万全を期し参戦!!

9月オールスター競輪決勝進出、青森記念優勝。そして結婚。自粛欠場後は順風満帆だったが、好事魔多し。10月熊本記念決勝戦で落車負傷し肩鎖関節亜脱臼。けがは大きかったが、その後、呼吸器系の疾患を発症して防府記念を欠場。ナショナルチームの活動も休止して、競輪祭参戦を目標に奮闘中とか。10月末現在で賞金ランキング7位。GPは競輪祭の結果次第なので優勝するために万全の状態で挑みたいと、意気込んでいる。競輪祭の結果次第では、優勝の有力候補になる。

井上 昌己(長崎・86期)



好調!!入魂の激走

平成23年の開設61周年で地元記念を初優勝した時は、ゴールと共に地元ファンの大歓声が巻き起こった。連続優勝を狙った昨年は準優勝と悔しい思いをしているだけに、「今度こそ」の気持ちは強い。落車が続いて愛用の自転車も壊れるという状態が続いた悪循環を断ち切ったのが9月オールスター競輪での決勝進出。オリオン賞では気迫の先行勝負に出て3着。「あれで良い流れを引き寄せられた」という会心のレースだった。11月松山記念では優勝。2度目の地元記念優勝へ、舞台は整った。

64回目のドラマ!! ————— チャンスは4日間!!

## 優勝候補`直近`情報

中川誠一郎(熊本・85期)



佐世保記念初Vだ!!

10月防府記念は、直前に行われたナショナルチームの合宿に参加しての参戦だった。疲れは有ったそうだが、競技と本業を両立していくハードスケジュールは慣れているようで、「一日休めば大丈夫」とキッパリ。有言実行を本番で証明して①⑧①③と手堅く纏め、結果を出しているのが凄い。防府記念での賞金上乗せで、来年の京王閣ダービー特選シードの可能性が出てきた。佐世保記念は今まで決勝進出の実績が無いが、力を付けた今年は、決勝進出と優勝の「両手に花」を狙う。

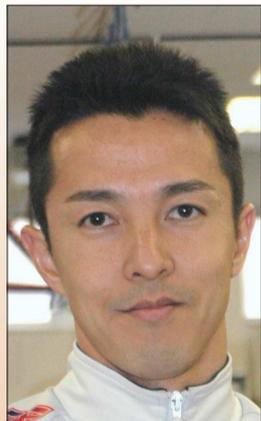
桐山敬太郎(神奈川・88期)



充実!!自力自在戦

8月小田原で待望の記念競輪初優勝をゲット。この一戦を境に、良い意味で「気楽に走れるようになった」というのが9月オールスター競輪(①⑨①①)の好走に繋がったようだ。「納得のいく練習ができていたし、セッティングも固まってきた」。状態は最高の印象。佐世保記念は平成23年と平成25年に決勝進出しており相性は良い。昨年は前向きで最終的に山田英明一井上昌己の3番手をキープしたが、井上を叩く「脚と勇気がなかった」と反省。「今度こそ」の意気込みで優勝を狙う。

稲垣 裕之(京都・86期)



絶好調!!勢い加速

自粛期間が短縮されて8月開催から実戦に復帰したが、それからは鬼のような好成绩だ。京都向日町記念準優勝、豊橋記念決勝進出。そして、9月立川からFIを4場所連続優勝。完全優勝が3回で、3連対率10割というのが凄い。ここに来て勢いが加速してきた印象だ。競走で色々な走りを試して、巧く出来ているようで、「状態はバッチリ」というのも頷ける。佐世保は2009年の共同通信社杯春一番⑥⑧⑧①以来の参戦で、記念競輪は初めてだが、今回は優勝の有力候補で登場する。

金子 貴志(愛知・75期)



初戴冠のバンク!!

2004年ふるさとダービー優勝。初戴冠の思い出のバンクで金子貴志が激走する。年末のグランプリ参戦に向けて、賞金獲得額でボーダーライン上に居る10月下旬。「賞金の上乗せが出来ればいいですけど、勝負は競輪祭。調子は悪くないと思う」と、ラストパートに入った。「やることは全てやって、悔いを残さないようにしたい」とも。競輪祭終了後にグランプリ参戦を決めて、8月富山以来の記念優勝を狙える状態で、意気揚々と佐世保に参戦する可能性が高くなってきた。